

2011年 2月 7日

No. 19

J R 東海 労新幹線関西地本

ホームページ: http://www.geocities.jp/jrcu_s_kansai/

メール: jrcu_kansai@ybb.ne.jp

Change

国労指導部は

Part 2

一体どこへ向かっているのか! ?

組合員が長期日勤にさらされていても 沈黙を続ける国労役員

昨年末に、東京と大阪の車両所において、仕事上でミスをした国労組合員が、会社から長期日勤にさらされた挙げ句に、出向に出されるという事態が発生しました。

「よくある話」と思う方もおられるかも知れませんが、

問題は長期日勤期間中に、会社から、人格を否定するような罵声を浴びせられ、組合員が助けを求めているにもかかわらず、その事実に対して国労役員は沈黙を続け、出向に対しても一切を組合員個人の責任にして会社のやることを黙認したことです。

労働組合は組合員を守る組織では?!

皆さんもまだ記憶にある「新幹線のパンタグラフ落失・架線切断事故」では、担当させられたユニオン組合員が事故の責任を一方的に押しつけられ出向に出されました。この事態に対してユニオン指導部は組合員の自己責任として、一切会社に抗議することなく組合員にかけられた会社からの処分を容認しています。

まさに、国労指導部もユニオン指導部も、「絶対にミスを起こさない」「事故や不祥事を起こした場合は全ては組合員個人の責任」である。組合は一切関係ない。ということでしょうか?!

皆さんは どう考えますか?!